

# 高橋一平

01

× 奥野・小野・高橋・藤井・山田



- 第一章 大学の必要性
- 第二章 >1化できるプロセス
- 第三章 人類滅亡の危機
- 第四章 感受性を磨こう
- 第五章 建築で遊ぶ
- 第六章 動物と人間
- 第七章 アジア哲学と秘密
- 第八章 哲学を形にする事
- 最終章 超唯物論

## 高橋 一平

たかはし・いっぺい | 1977年、東京都生まれ。芝高校卒、東北大学工学部卒、横浜国立大学大学院修了。西沢立衛建築設計事務所を経て、'10年より独立。横浜国立大学、法政大学で講師を務め、『七ヶ浜町立遠山保育園』(2013)、『アパートメントハウス』(2018)、『河谷家の住宅』(2019)などの建築設計を手がける。

### 第一章 大学の必要性

**高橋** 今年はずすね、卒本を全国に配つたらいいと思う。  
**学生** 全国？  
**高橋** だって、せつかく色々な建築家にインタビューするんだし。予算に限りがあるなら、新聞みたいにして配るとか。大学ごとにつくってお互いに交換しあう。こういうものは公開した方がいいでしょう？ ある大学から見ても「横浜国立大学の設計、どれも同じようなことやってますね。」って見られる可能性もあるし、やはり大学のカラーが出るでしょう。仙台で一位ということが必ずしも将来に影響するわけではないんですね。そういうことをリサーチしても面白いのでは？  
**結局**、「卒業設計って何なんだ」っていう。卒業設計とはいいつつも、ただか建築学科の正味二年の蓄積と経験で四年の夏を迎えるわけで。そこで一等であるとか、ビリであるとかというのは、自分の適正を判断する材料にはなりづらいだろうね。何らかの原因で失敗したけど、今とは違う、自分にあつた環境に身を置けば発揮できるかもしれない人にとっては勿体ない感じがします。最近そういう、一律にふるいかけられるという出来事が将来を左右するということが気になりました。今年を経て、卒業設計っていうのは何なんだ、っていう。もつと自由でも良いのでは。  
**学生** 横国以外だと、卒業論文を十一月ぐらいまで書いてそこから仕上げるみたいな…。  
**高橋** 僕はそうでした、東北大学で。  
**学生** となると、やっぱり横国って結構違う。  
**高橋** 違うよね。でも七、八月ぐらい継続して考えるテーマを持つというのは良い。だけど、将来はそんなことで決まらないでしょ。卒業設計なんだけど、あくまで途中経過かなと。例えば、高校野球だって三年間やるじゃない？ それでいきなりプロに入ったって育成があるし。でももつと前にリトルリーグなどに入っ

たりする訳ですからね。建築学科の場合、大学に入ってからやるんだからさ。これは何か、違う。

#### 高橋・学生 (笑)

**高橋** 日本には大きな教育改革は無理だと思えますが、幼稚園児から建築を学ぶというのは一つあるかな。つまり、建築がただの専門分野であってはならない、ということ。この「専門分野化」っていうのがややこしくて。例えば、哲学なんかも今では専門分野になっているんだって。そういう問題は、東浩紀さんとかが時々吐露してますけど。「哲学を語る人は気難しい人だ」って言われて、横に置いておかれてしまう。知的な人はマイノリティになっていき、無知性なマジョリテイが民主主義を掲げて社会を独占するという状況です。私は心理学、私は哲学、私は建築学、という風になるのがおかしい。この社会の分業化が学生にまで下りてきているわけで。卒業設計も「専門分野化」の性質に拍車をかけるようなイベントになってしまいそうな感じが少しする。まず出来る事は、卒業設計のテーマやプレゼンテーション方法を見直すことかなあ。

**学生** 建築が「身体化」していない、みたいな話を何度かおっしゃっていたような気がして。

**高橋** それにも繋がると思う。建築が身体化するっていうのは、建築で遊ぶっていう感覚だと思えます。それは幼い頃にレゴブロックやったりとか、人形遊びとかドールハウスやるでしょ？ 僕の友人の子供にも、一緒に居酒屋に来るのは良いと思うけれど、座敷でゲームして寝る、みたいな。ああいうのを見ていると嫌な予感が非常にするんですよね。

**学生** レゴとかをやらせること自体が英才教育みたいな風潮になってますよね。

**高橋** そうそう、それもよくないよね。(親は)教育が面倒くさいから、放っておきたいから、良い環境にとりあえず入れておきたい、っていうので私立を受けさせて。人任せ社会じゃないですか。そういう中で専門的に分かれるっていうことは、怖いなと思って。まあ要するに、四年間で卒業設計というのは早くないか？って言うことでもあります。

**学生** でも大学は四年制ですしね。

**高橋** 大学って必要なのかっていうこともちよつと思つていて。大学があくまで専門教育の場所になるなら、それは専

門学校です。分化していくと大学という環境すら要らなくなつてしまわないか、という危機感も感じます。その一端かもしれないが、MOSAという設計分野だけが建築学科の中から取り出されたような形になったのが十数年前のことで、当時は起爆剤になったのだと思います。しかし、一方で大原先生や野原先生など別の分野の影響を受けづらい環境になる。大学である以上、常に合体しないと大学の存在意義を保てないのではないかと思ひ始めました。

**学生** 大学が必要かどうかはあると思うんですけど、私にとって学棟(建築学棟)の存在はありがたくて。

**高橋** 文系の人と絡めるとより良いですよ。建築学科って何やってるのか、他学部の人がこの製図室を見たらびつくりすると思います。そういうことは未だ起きていないじゃないですか、キャンパスの計画がそういう風だから。東大に至っては、クラシシズムの様式的なファサードだけを眺めて想像するしかないわけで。そういう風なことも起因して、V1が出てきたりするんじゃないかな、何でV1を生み出すのかって。

**学生** それは私もよく分らないです。

**高橋** 何かが面倒臭くなる。こんなのいいやって、このような仕事はルーティンでやってしまえと。電車の改札でさえも、道案内でさえも、全部事務的にこなしていくっていうことが>1化につながるんだよね。そういう一つ一つを楽しんでいくというのも、本当はあるはずで。そうした身近な豊かさが思いきり抜けているんですよ。その部分をもつと豊かにしていくような流れが作れるといいのかな。建築にはそういうことができると思うんですけど結論はないんですけどね(笑)。卒業設計全体の感想としては、そういう感じですよ。

## 第二章 AI化でざるプロセス

**学生** 僕らの代では課題が少し変わりましたよね。\*1こども

センターとか、\*2図書館課題も(敷地が)横浜国大になったりとか。

**高橋** 大学図書館の課題は富永護先生の提案で、「身の回りから考えない想像力を鍛えられないだろう」ということがありました。こどもセンター課題の狙いは、いわゆる「公共施設批判」です。大原さんがいるから面白くなるんじゃないかなと思つて。大学の設計課題って、住宅、集合住宅、その後公共施設を幾つかやって卒業設計、っていう感じなんだけど、そうじゃないやり方にするということを前からやってきていて。例えば集合住宅の課題なのに、なぜかギャラリーとか保育園のようなものを設計し始めるというのは面白いんじゃないかなって。建築がすごく身体化するプロセスなのではないか—。

こどもセンターの前は、小学校や中学校を設計する課題だったんですが、学校という制度は、僕はそのうち要らなくなるような気がしていました。要は人口が多いからとか、親が子どもに九九を教えるのが面倒だから、一人の大人が四十人くらいの子供に対し、効率的に近代的な基礎知識を学ばせるという施設ですよ。そういう環境は良くないと思うんです。例えば漢字を覚えるという困難は、iPhoneで文字を打つて>1が変換して解決されるようなものではなく、「醤油」ってどんな漢字だったっけ?」っていうのを皆で思い出す面白さみたいなことで緩和できると思うんです。だから設計課題も○●施設というよりは「何が要るのか?」っていうところから考える方が楽しめるのではないかと。そしたら「建築は>1に任せよう」という風にはなっていないんじゃないか、ということなんです。

**学生** 確かに三年生の課題から、名前をつけるのが難しいようなものを考えていた。集合住宅と言われても他の機能が加わって、入っているものとか役割が集合住宅以上のものになつて。卒業設計もそういう感じがありますよね。

**高橋** 課題のタイトルももう少し変えた方が良いかもしれません。\*3アートセンターという課題も、アートセンターというよりはむしろ「モダニズム建築とどうやって並ぶか」っていうサブタイトルの方が主題だったりします。あくまでアートを建築の機会にする—と一応個性が出てくる訳ですが、もつと本質に迫る課題をずつとやってきているんです。

**学生** でもそうすると、最後の設計までうまくいかないことがあるなと思って。最後にこれ建築になってるのかな？と思いながら終わっちゃったと言ふか。

**高橋** もちろん形にできれば凄いいけれど、それでも仕方ないしそうなるのは当然だと思います。最初から「そんなことできるわけないかも」っていう課題を出してるわけだから(笑)本当に創造的な大学の場合、そこで良い結果を出すというのが、虫が良すぎる考えなのかもしれない。何か解決をしなければ、という考えになるのは、大学に入るまでのプロセスが「A」化できるような思考を要求するから。つまり、方程式を解くということに、基本的な楽しみがあるわけではない。そういう英才教育をずっと十八年間受けて大学に入るわけだからリハビリには時間がかかる。

**学生** 建築の勉強は人間的だなんて思いました、四年間。

**高橋** そうだよな。本当はそうなんです。ただある大学に行くこと、それがたちまち機械生産になる(笑)CADを必死で使いこなせなければいけないとか、そういう大学もあります。でもそれは建築学科とはもう言わない。そういう意味では大学の建築学科ってすごく少なくなってきたんじゃないですか。資格が必要とかなって来ると、ますます建築っていうのは崇高なものではなくなっていく。毒物取扱業者みたいに、フグをさばくにはこの人がいるとか、薬局をやるには薬剤師さんを一人入れなきゃいけないから、探してその人だけ給料高くしてあげて、みたいな。そういう本当にくだらがい、人間性を排した社会に変わっていつてしまう。それを憂えているんです、僕は。

〜お菓子タイムに入りました〜



**学生** 今年は結局、地元(を敷地に設定した人)が半分ぐらいのような。最初の講評会で(藤原)徹平さんが、「地元をやるのはどうなのか」っていう話をされて。

**高橋** その意図は僕も理解しきれなかったんですけどね。なんでなんだっけ？ 藤原さんが言う事っていうのは鋭く当

て近代的な結婚像も含まれている。近代的な就職と近代的な結婚というのを上の世代がぼやくから、そこにまだ迷ってしまふ。けれども基本的にはもう今は「自分探し」の時代になっている。製図室にみんないきやいけないというのは、一律的で古臭い環境だなと思う。でもまあ、伊波君だったっけ？

**学生** いなかったです。

**高橋** あれ山田君もいなかったっけ？

**学生** いや、僕は半々ぐらい。(山田) 最後の方、上嶋とか。

**高橋** だからそういうほうが自然なのかもしれない。これ空間の問題かもね。もうちょっと製図室が広ければね、全然違うのかも。

## 第四章 感受性を磨こう

〜小野正也登場〜



**学生** 正也君、何か一平さんに聞きたいことない？

**高橋** ずっと深刻な話して、今日。

**学生** 人類の話とかで：：ちよつとポップな話欲しいんだけど(笑)

**高橋** 「ちよつとしたことが面白くなるようなこと」を考えたら面白。例えば、バスの面白い乗り方はあるかどうか。バスってつまらない乗り物だと思ってる？ でもあれが遊園地にあつたら並んでも乗るかもしれない。そういうのあるじゃないですか。単純に顔洗うことでも、歯磨きとかご飯食べるのとかお風呂に入るのとかでも、それがもうちよつと良くないでしよ？ 映画とか観ないからダメなんだよ！ 映画面白いよ。映画見た方がいいよ。昨日はあれ見た。ソフィア・コッポラ。僕がすごい好きな映画監督の一人で、この人はそういうことを知っているんだなあと思いました。最近もいくつか出して

たるから。

**学生** 「パワーがない感じのところが弱い」って。地元だから思いきって手を加えにくいみたい。とおっしゃっていた気がします。

**高橋** それは一律に言えることでは。かも。

**学生** 逆に北山さんは万平(※4)一万平米課題)の「地元でやれ」って(笑)

**高橋** それは横浜国大の面白いところだよな。建築家によつて全然違う意見を言われる(笑)だから結局自分というものが無いと生きていけないということが分かる、それはやっぱり横浜国大の良さだと。大原先生ももっと強い意見を言ってくれば良いのですが。きつと「今の建築家がつてることなど古い」とか、きつと思ってるわけですよ、大原先生は。知ってるんだ、僕は(笑)もつと激論するような機会があつた方がいいんじゃないのかなと思つて。人類滅亡の危機だよ、もう2020年は。人類滅亡の危機に、専門分野化してたらもう人類が終わると思うよ。

## 第三章 人類滅亡の危機

**学生** 詳しくお聞きしたいです。

**高橋** ※5「2001年宇宙の旅」っていう映画見ましたか？ キューブリック監督の。機械が人間を宇宙に放り出すわけ。あそこで登場する宇宙人のような機械が「」です。「」っていうのは、人間活動を無意味化していく、何と云うのか：：まあ要するに、実際に人類は滅亡しないけど、生きがいとしては滅亡に向かっている。例えば自殺者が増えるっていうのもそうだと思う。人間関係が原因で自殺する人とか、それ以外に生きがいがないわけじゃない。自分にはサッカーがあるとか、自分には子供を育てる楽しみがあるとかつていう風に、大抵はそれで踏みとどまるんだけど、踏みとどまらずに

て、どれもすごく普遍的なものをテーマにしていると思う。あの人の映画で、※6『ロスト・イン・トランスレーション』(2003)つていう、二十年ぐらい前の。それ言うともんな「名作だ。」つて言つて話を乗っ取られるんだけど(笑) ある少女を通じて、外国人が異国情緒に触れる時の心理っていうのを表現している。感覚的なことが映画になっているのは面白い。ハリウッド映画みたいに車がぶつつかつてドーンみたいな、誰が撃つて死んだみたいなのは、映画じゃないわけ。その表現を通じて何が感じ取れるかつていうことが僕には重要なんです。だから映画をおすすめします。ドラマはだめ、ドラマは出来事しかライターチャージャーされないから。昨日見たコッポラの映画(※7『ピガイルド 欲望のめざめ』(2017))も一昨年ぐらいのリバイバルで、十九世紀の小説を映画にしたやつ。男子禁制の女子しかいない学校。

**学生** ああ、それ観ました。

**高橋** あれ僕昨日見て、Amazonプライムでの評価が5点満点中心。いくつとかで、ええーと思つて。ああいうのを映画つて言うんじゃないのと思つただけだ。そういう感覚、センスをどうやって誰にでもわかる形に置き換えるかつていうのが大事な作業になつてくるのではないか。映画と比べて、建築つて難しいよね。これは人類を救うことになるだろう。特にコッポラの映画はとにかく映像が綺麗なんだよ。画の入り方も色も綺麗で、そういうのだけで一時間半映画にできちゃう。この人の映画はいろんな場面が、全部豊かなんです。これは重要なことなんだと思う。当然ストーリーは重要視されない。

**学生** 映画はそういうのを表現できますよね。

**高橋** 脚本も重要なんだけど結局総体として、何を訴えているかつていうことに着目する映画評論つてあんまりなくて。まあ難しいんでしょうけどね。「身体化」というのもそこにつながる。感性というものをやつぱり大事にしないといけない。

**学生** …：。人類滅亡からの繋がりが分かつていない：(笑)(小野)

**高橋** 人類が滅亡しない為にどうしたら良いかと言う話。どうしたら人生を楽しめるかつていうことですかね。

**学生** 特に日本人とかがですか？

いつてしまうというのは、日常生活にそういう楽しみがないんだよな、きつとね。奥さんにガミガミ言われたり、近代のサラリーマンは家庭では(銀行の)ATMだとか押揃されてーん？ なんてこんな話になつちやつたんだろうね(笑)

**学生** (笑) なんてだつて…：。

**高橋** 結局、それぞれ人がどうやって目の前にあることに楽しみを見つけて生き存えるか、つていうことが一番大事ということなのかな。だから、きつきのようになんて地元のやらない方がいいよつていうのは実は矛盾も孕んでいる。僕は、そういう風に違う方向へ考えようとしても、その思考の細部では近代化の煽りを拭い切れないうるのだと思ひます。一律で物を言うこともしかり、教育の場に「総論」つていうことはもう当てはまらないだろうしね。

**学生** 藤原さんのゼミで、去年はある意味一律で本を決めてそれを読んでいくつていう体勢だつたけど、今年はその興味のある本を持ち寄つて、それでテーマを固めるみたいな話をしてた。

**高橋** それ占いだよ、占い。

**学生** 占い？

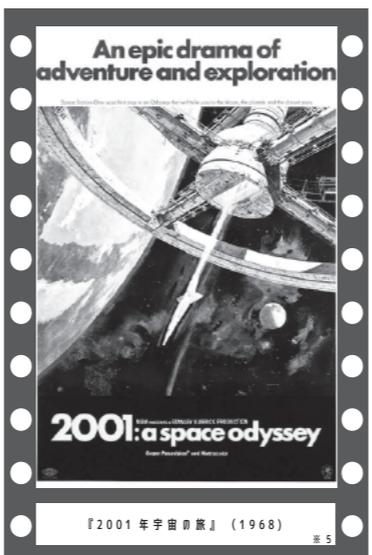
**高橋** うん。そうやってね、占いをやるのは凄く良いと思ひます。自分を見つげるためにみんな、占いをやるじゃない？ やつたことない？

**学生** やつたことはありません(笑)

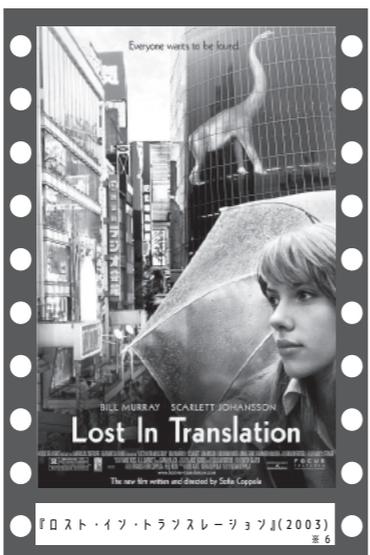
**高橋** 星占いか手相占いか姓名判断とかやるじゃない？ あれは自分の個性に向かつていく、追いかける行動だと思ふ。自分の興味のある本を何冊も並べていつて、占う。それはとても有意義な行為だと思ひますよ。占いと、予測です。

**学生** あれは占われてたのか(笑)

**高橋** 自然な人間行動だつて感じはしますね。要するに、高度な自分探し。だから、それをする建築学科を出た人はアトリエ事務所に行きたくなる(笑) けれど途中で離陸するとゼネコンを求める。自分探しすると食えなくなることもあるからね(笑) それで、近代化が達した天の声が聞こえてくるわけだ。例えば親の声ですね。「大手企業に就職しなさい」とか「早く結婚しなさい」とかいうような。その結婚つていうのも、「結婚して生活を立ち上げなさい」という、あくま



※5IMDb



※6



※7

**高橋** 日本はまだまだ遅れているから、まだ取り戻せると思う。アメリカや中国なんて本当に進んでいるところは進みすぎてて、コンビニが無人生化し始めたりするでしょ？ コンビニが無人生化すると何が起るかっていうと、出会いが一個減るっていう、男女の出会いが。好みの女性がカフェでバイトしてて、そこへ通って声を掛けるとはまずなくなる。LINEを使うにも、もつと知恵やユーモアがあれば新しい未来があるかもしれないという希望はあるけれど。

**学生** 人が移動しなくなる感じがします。

**高橋** そうするとみんなインターネットでお見合いし始めて、収入と顔写真で判断したり(笑) 自分も機械なのではないかっていう風に思い始めている。そんな話をしてみました(笑)

くまたお菓子タイム

節分の話。節分の日には撒かなきゃダメ。嫌いな人の顔を思い浮かべて豆撒くといらしい。



**高橋** 何て書いてあるの、そのメモ？ 柿の種食べるとこ撮ってるの？ 何のためのカメラ、それ(笑)？

**学生** 本のための…雑誌みたいにしようっていうので写真撮ってる。

**高橋** 何か面白い質問ないの？ 面白い話題ないの？ ビールかなんか飲む(笑)？

**学生** (笑)

## 第五章 建築で遊ぶ

**高橋** 『建築を身体で遊ぶとは？』のメモを見て——』建築で遊ぶっていうのは、そうですね、例えば、最近の

がなぜと分ると分かる。でも正直、図面を書く面白さをまだ自分では分かってないと思います。(藤井)

**高橋** そうだよ。分かってほしい(笑) 今年の二年生はそういう課題をやってみたんですよ、試しにね。

**学生** トレースじゃなくて？

**高橋** トレースというよりは、プリントって言うか。伊勢神宮の鳥口がモデル。すごい完成度の図面を誰でも書けるでしょ。インクってなんか面白くない？ って感じにならない？ 完成度が高い図面が描ければ、図面の面白さが出てくる気がするんだけどー。グリットでザアッと並んで壁で適当に仕切って、とかってなるとこれはもうAIの始まりで、身体化しないんだよ、それじゃ面白くないだろう。例えば、人類が初めて火を見つけた時はきつと、ずっと火で遊んだと思う。いろんなものを燃やすじゃない。「うわ、こんななつちやった！」とか、虫眼鏡でアリを燃やしたりとか。すごい怒られるでしょうけど。あとパーベキューなんかで、焼く必要のないものまで焼いてみたりとかするじゃない？ ああいうのが建築でできないのかな？ 建築の「身体化」というのが、**学生** だからこの半年だけでは難しかったということですね。

**高橋** もつと時代が変わらないといけないかもね。

**学生** 一年生の身空(※)身体と空間のデザイン)とかは…。

**高橋** ただあれは幼稚すぎる感じがしますね。もう少し建築的なもので遊んだ方が、※。スペースブロックとかを最初にやっった方が良さうな。

**学生** スペースブロックは確かに遊んでる感じが。

**高橋** スペースブロックで住宅つくる課題をやりましたよね、確か。小嶋一浩さんがつくった課題です。ああいう事やる、と、2.5mのキューブの部屋っていうのが一応意識できて、その中で想像が浮かぶじゃない？ 垂直方向にボリュームが並んでると、吹き抜けに落ちてしまうのか、階段で降りるのかっていうことになって。ああいうのって遊べるよね。

ポーツでも、野球とかサッカーでも、子どもがボール遊びっていうのをしなくなっただって。Number)が何かの雑誌で選手のインタビューがあっただけで、いきなりリトルリーグに入って試合に勝とうとする。野球だったら本当はまず、野球のボールってものがなんか面白くて、転がしたりバットでうまく当たると遠くに飛んだり跳ね返ったりするのが面白っていう。まずそこから始まって、それが球技っていう試合につながるのが本来の流れ。それがいきなり、

「バットはこう持って振らなきゃだめだ」とか「試合に勝たなきゃいけない」という風になっちゃうと、遊びというのがない、きつとつまんなくなるんだよ。それは建築なんかでも、学部生の講評会でいろんな建築家が押し寄せて来るのも、やりすぎは良くないんじゃないかなって思ったの。自己否定もあるんですけどね(笑)

**学生** (笑)

**高橋** いきなり大学入って建築やるんだしたら、頭ごなしに「建築が未来をつくることだ」とか言わない方がいい。釘を打って小屋を建てるのが面白いとか、図面を描くのが面白くて、それが模型になってできあがったものがなんか面白っていうことから始めないと、長続きしないでしょ。最初は適当に遊べばいいと思うんです。で、なんでこんな話になっただんだけ？

**学生** 身体化…。

**高橋** そうそう。だから身体化っていうのは、そういうことだと思う。



**学生** 確かに、大学入ってから遊ぶというよりもまず課題を出さなきゃいけないっていう、締め切りが…。

**高橋** 学生のうちは締め切りを気にしすぎない方が。何分何問解いて、何時間以内に出すみたいなメンタリテイは良くないの。はい、いつでも提出できるようにいつもやっておけば良い。教えるこつちも締め切りを特に気にしない(笑)

**学生** うーん…。

**高橋** 面白くなっちゃうと思うよ。僕は絶対やらなかったと思うよ建築(笑)

**学生** (笑)

**高橋** 僕が居た東北大学っていうのは本当に自由奔放で、何やってもよかったの。っていうのは、建築家がいなかったんですよ。だから地震工学の先生とか、環境の先生とか、みんな「建築ってどうやってるのかな？」っていう感じ。エスキスに持っていったら

「これやりすぎじゃない？」とか「なんか変じゃない、この形？」とか言われるくらいで(笑) いい大学だったと思う。

**学生** 振り返ると、二、三年生の時も提出図面に追われていたような気がします。

**高橋** どうなんだろうね。図面は書いた方がいいんだけど、図面を描く喜びをまず知れるかどうかなんだよな。だから課題を作るのって難しい。図面トレースに面白さを感じられるのか、トレースしない方が面白くなるのか。どっちがいい？どっちが面白い？

**学生** トレースは私は好きです。「こうなってるんだ。」っていう

人っていうかアジア人にとって不幸だかっていう気がするよね。その時に、「動物と人間の関係」、アジアとヨーロッパの関係、「人間と技術(工)の関係」。これは将来的にもつと発展していくような話ではないのか。ファクションの世界でも、「蛇の皮をバッグに使うのはいけない」とか「毛皮は天然のを使っはいけない」とか。「生きたままエビを茹でるのは見えて辛そうだから禁止」とはスイスが法令化しましたが、そのような先進国が生む「動物と人間」の関係というものが、果たして人類史にとって良いのかどうかという、倫理観のようなものに興味があります。価値観や、人間世界を認識する方法が変わってきた時に、人間はどういう建築が欲しくなるのか。気になるところです。

## 第七章 アジア哲学と秘密

**高橋** 同じように今、哲学の世界でも同じようなことが言われていて、西洋で起きた近代哲学に対抗する「アジア哲学」というものが期待が寄せられている。今までの哲学はヨーロッパ主体であった、ソクラテス、プラトン、アリストテレス、ルソー、ハイデガー——。世界史の教科書だって見てもほとんどヨーロッパの歴史ですよ。そういう西洋思想が作った人類史というのが、アジアが植民地支配から解かれたことよってひっくり返るまでは無いかもしれないけれど、対抗してくるかもしれないという勢いは面白い。しかしアジア人はエアコンとかコンピューターにほとんど犯されて、せつかく出てきたパワーが潰されていってしま。人間と動物の扱いも、西洋と東洋って全然違うんだよね。

**学生** …。

**高橋** ファイードバックはないのか(笑)？

**学生** どう違うんですか？

**高橋** 全然違うんですよ、僕は専門じゃないんですが、東

## 第六章 動物と人間

**学生** 一平さんと大西さんのお二人で、Y-GSAで話された時の「建築の神話化」とか「噂」とか。あの話が当時は少し難しかった。

**高橋** 何の話をしたんだけ？

**学生** 「Google Earthでは分らない、行ってみたいところから体験みたいなのを自分では作りたいんだ」ということをおっしゃっていた気がするのですが。その中で、「河谷家の住宅」も出て、そこからまた発展はありますか？

**高橋** 「噂」というのもその場へ行かないと真実を掴めないようなものです。「噂」が建築になるようなことをしたいって言った記憶はありますね。確か「河谷家の住宅」とつながっています。すると、なぜそのような建築行為が起きたのか？と好奇心が湧くと思うんです。つまり、建築を取り巻く物語(「神話、新しい世界の始まりみたいなもの)が想像できるようなになる。それをみんなが知る。すると人間と建築はもつと近い、建築の必要性(「社会性)へ立ち返れるのではないかと。そういう話です。それもこれからずっと継続していきそうなことですね。

いま興味があるのは「動物と人間の関係」。例えば猫とか鳥とかとどう付き合うのかっていうのが、面白くなってきています。本能的なことだけで行動できる動物っていうのは、そこらへんにいる小さい動物を殺して食べるわけじゃない。それが人間の場合、イスラム教になると豚が食べられないとか、なってますよ。そういう時、動物と人間に近いものを感じるし、そういうことを考えるとき、近代的なことってどうでも良くなってくる。ちょうど先日から流行った新型肺炎の原因が、中国人が生きた動物を「あれは体に良い」といつてやたらと食べていることだと噂された。そこで「コウモリを食べるなんて変態だ」とヨーロッパ人は叩くけれど、本当にそうなのか。彼らだってカエルを平気で食べるのにね。アジア差別が欧米でまだまだ残る中であれ起きたのは、中国

洋っていうのは動物に興味をもたらす。方位だとか、虎は神だとか。

話を戻しますが、レクチャーで言っていた「神話」、「噂」というものが建築になるのかどうか、その関係には関心がありますね。あとは、「秘密」。これは重要な概念だと思う。「秘密」っていうのは実は人間だけじゃないらしい。蟻が地面の中に巣を作るっていうのも「秘密」の一つです。その部分はどうやって建築できるか。住宅だとすれば、形成過程、そのアプローチが動物的であるかどうか。蜂が巣を作るところなりまですっていうのを代表できるものがこれから先あるのか、非常に気になりますね。秘密の部分の孕みながら家ができていくんです。川越の家の場合は、蔵造りの通りがあつて、あの環境の中で人間が商売をしていくという都合でああいう形式ができていくんだけど、それが現代になつてもあり得るのか…。こうした話しはどうやってまとめるんですか（笑）？

学生 そうですね…（笑）

高橋 結論がないわけ（笑）

学生 さっき東洋思想と西洋思想みたいな話があつて、日本って微妙な位置に居るなつて。いち早く西洋に順応したという感じの国でありながら、東洋ばいっていうか、利用しているというか。

高橋 それはいろんな説があるらしいですね。建築は中国から来てますよね。日本人は重源が建てた寺から木造を学ぶんだよね。でも安土桃山くらいの時、木割というのが発明されて「モジュール化して大量に作ろう」みたいなことを誰かが言い出すんですよ。その辺が日本らしいところかなつていう感じがするけど。あと磯崎新は、「日本建築の一番の良さは、構築の表現」と言っていましたけど。木を組んで構造を作る「構築」。大工が持ち送りして、軒が派手派手になつたりするような。ヨーロッパは神へ向けた装飾でそういうことを実現させていく。ゴシック・ルネサンス・バロックつていう、情動的で精神的な歴史がありますよね。日本の場合は「物質つてすごい」「木つてすごい」みたいな感じで、それが表現になるという。そういう意味では、物を作るつていうことがすごく身体化された民族なのだろうとは思ふ。



学生 構築することを楽しんでいた、という事ですね。

## 第八章 哲学を形にする事

学生 建築学科って何なんだろうつて思うんです。

高橋 建築を通じて哲学というものを知る。哲学的に生きる環境つていうのがあると良いと思います。哲学的に考えることの一つに、「なぜそれがあるのか」つていうのを改めて考えさせられるような思考をすることです。「建築つて何で建てるのか」、「トマトは何で赤いのか」、「なんで人間は服を着るのか」とか。「人間は何で生きて死ぬのか」の究極は哲学だよね。建築を通じて、地球、人類もしくは人類が生きる環境について哲学的に考えるということなのではないか。建築つていうのは哲学の実現だからね。

学生 哲学を形にするということ。

高橋 そうそう。だから、三年生の「こどもセンター」なんてのはとても哲学的な課題なんです。「子供はどういうところで育つと、どういう影響を受けて大人になつていくのか」、同時に「人間つていうのは何のために生きてるのか」つていうことを考えられるのではないか——哲学的課題なわけですよ（笑）伝わるかな？ これが哲学的に思考されない場合、「保育園をつくりましょう」、次は「美術館をつくりましょう」つてなるんだけど、これはただの技術を極める問題で頭打ちになつてしまう。それを哲学の方にシフトさせるのが、やっぱり建築学科の役割ではないでしょうか。昔の建築学科はそうじゃなかったと思う。そういうことに対して想像したことがある人とそうでない人では、生き方が全然異なるはず。例えば将来、先輩にコピーが下手だと言われましたと、その時にどうやつたらコピーが綺麗にできるのか、だけでなくコピーはなぜ必要なのかつて考えるのか、何を想像するかで、人間がどうしても分かれてきますよね。人間の知恵と思考というものが養われていく環境ですよ、建築学科つていうのは。

い。最先端の西洋哲学者のなかには、ある日突然神が地球上に現れて、今まで亡くなった人たちを全て蘇らせる瞬間つていうのが（笑）ではないと。これを「第四世界」と名付けて真面目に言っている人たちがいて。そこまで来ている、西洋哲学は、それを考える——これを卒業設計本に（笑）

学生 そうですね…（笑）

## 最終章 超唯物論

学生 一平さんが言う「哲学だ」つていうのも、ある意味信念、スタンスみたいなものがあるわけじゃないですか。学生の頃からですか、そういうこと言つてたのつて。

高橋 そういう気配は昔から自分にあつたかもしれない。僕、世界を斜めから見てるんでね（笑）。誰かが展覧会やつてるけども、「それが本当に必要なのか」と、まあそういうスタンスは常にあるかなと思います。哲学書、読んだら絶対面白いよ。

学生 エンジニアリングの興味みたいのはあるんですか？

高橋 どういうやつ？ リチャード・ロジャースみたいな？

学生 それもそうですし、何で言うか、それが全てにはならない感覚つてことですか？ 後からついてくるというか。

高橋 そうだね…。日本の、さっきの構築の表現というのは、リチャード・ロジャースも割と近いものがあると思う。「物を作つた」という事実が痕跡になつて、それが建築という存在を説得していくつていう、いわゆる唯物論みたいなことかな？ 「ものは全てを語るんだ」という考え方、それはよく分かる。でもそれは哲学の一種で、その先は無いような根源的なものだから（笑）

学生 今ちよつと、解せました。

高橋 解せた（笑）？ 振り切れてる人つてほしいな哲学的な思想を持つてるんだよね。だつたらこうしちゃえばよく

小野くんなんて、以前は地味な作品が続いていましたが、敷地を自然地形にした途端、カーブが出てきてわけのわからない屋根が出てきて広場を作るつていう、それこそまさに人間の英知ですよ。何で「建築がグリッドになつてしまふんだろうか」と問われたんだと思います？ どんなアプローチだつたの？

学生 うーん、最初は斜面にグリッドでやろうとしていて（笑）（グリッドが合わない）最初に思いましたし…。でも暮らしてる人を意識するつていうか。（小野）

高橋 グリッドではなくなつた？

学生 あそこにグリッドがなくなつたつていうのは、何で言うか、最後まで割と柱の落とし方はグリッドで。（小野）

高橋 けれど配置が全然違うんじゃない？ 丘を囲むみたいになつてたり、何かを繋ぐみたいになつたりとかしてたよね。

学生 確かに、あえて斜面にしてみたのかもしれない。（小野）

高橋 何かしらのそういう作用が働いたんだと思う。

それから、「 $\Delta$ 」というのは、西洋哲学の究極的な体現の一つとも言えるらしいです。ハイデガーが死ぬ（ $\Delta$ ）年位前に、哲学の次に来るものはサイバネティクスと言つています。サイバネティクスの根本原理は、フィードバックのシステムです。フィードバックという概念が何に應用されているかと言つと、例えばマーケティングのような予測行為です。この原理を進めていくと「 $\Delta$ 」になつちゃう。だから西洋哲学は終わりだつて言われているんです、乱暴に言うつと。

学生 東洋の哲学で、そういうのはないということですか？

高橋 東洋の場合、哲学と呼ばず、儒教などの宗教になるんですよ。そこが面白いんです。アジア人は、縁起のある動物を用いて神を可視化しようとした。たまたに欧米人のなかで、人間の中に宇宙人の子どもがいるとか言ってる人がいますが、これはヨーロッパ哲学の崩壊かもしれせん。つまり、人間はどこから来たのかつていう回答に対して、全く未知のものを信じて頼るしかなくなつてくる。明確な探索つていうのができないから。よくわからないよね（笑）

学生 それは面白いですね（笑）

高橋 最近創作されてる演劇とかでも、旧約聖書の引用は多

ない？「みたいなことで。でも今、唯物論終わったつていう人もいるんだよね（笑）」

学生 困る（笑）

高橋 だから、そこが建築の脅威です。「唯物論が、哲学的に重要になるのかどうか」。唯物論は「自然科学」とよく結び付けられてしまう。ここで言う「自然科学」つていうのは、「自然の事を大切にしながら、何か人工物を作つていくときの思考」のこと。そこに抜ける考えが「倫理学」。ここでは自対する倫理です。これは建築が補つた方がいい分野なのかもしれない。例えば、地球環境に優しい建築にしましょうつて時に、みんな屋上緑化したり風力発電でエネルギー入れたり、太陽光パネルとか言つてるけど、本当にそれでいいと思つてる？というような辺りのことです。地球に優しいつていうのが単純に北極の空のオゾン層の穴を作らないということなのか、二酸化炭素の量を減らすことなのか——。そういう指標と数字の話、自然科学の中で近代的にやつちやつてるんだよね、倫理が迫つていない。それが人間の発達に繋がらないんじゃないかと。

「人間というのはそもそもどういう生き物なのか」

「生きがいとは何なのか」

「人間が他の動物とは違う部分はどこなのか」

その一考が抜けている。特に環境分野はそんな感じがする。その傍らで「動物にも命がある」とか自然主義的とか文学的なことを必ず言う。

\*1。笠井潔つていう小説家が面白いことを言つていて、東浩紀がわかりやすくまとめています。「近代で起きた戦争の前と後で、人間の価値観つていうのは、変わつていない」という風に言うんです。それは、「大量死」戦争に伴う虐殺から「大量生」団地の大量建設」に移つていうこと。つまり、人を大量に殺した後には人を大量に生かすつていうことをいろんな国の政府がごぞつてやつた。直結しませんが、あくまで現象として日本では広島が分かりやすく、野沢（正光）さんが作つた『市営基町高層アパート』周辺の団地・アパートつていうのがそれで、大量の生があるんです。つまり、人間つていうのはあくまで数字、という見方。「基町アパート」は建築設計によつてそれに対抗しようとしたのだと思います。「人間を数値化する」という意味では、今の時代もマイナンバーとか、全

部政治家がやるわけです。そういう意味で「人間性の倫理」っていうのは、これから先見直すものなんじゃないかなと思えますね。そういうことを知りながら、自分の好きなこと＝建築をやるというのがいいんじゃないかな。上辺だけの正義感で生きててもしょうがないから(笑)。そういう人たちを救うのが、哲学です。哲学的な考え方が大事だね。

**学生** 建築を作ると、みんなが使わじやないですか。そこに正義感があるというか……「いい建築作つてみんなが使おう」という考えがあると思うのですが。

**高橋** その満足感を射程にしようとして、(人が)来なくなつた時にその価値がなくなつちゃう。その最たる例が商業建築ですよ。最近の公共建築って商業建築化していると思います。正義感っていうのが、社会的な正義感なのか、それだけ一人一人が持つてる正義感なのかっていうのは大きな違いなんじゃないかな。例えば、人が来なくなつて、「この美術館は重要な美術館だ」って位置づけられる考えがあるのかどうか。究極的には入場者数っていうのは関係ないんです、美術館って。それよりも重要なのは、その絵を通じて、地球の何千年の歴史の中のその時代について注目が及ぶか、という事の方が重要なんです。だから、残すことが大事なんです、アーカイブにする。こうやってみんなで喋つてる内容も文章にしてちゃんと残しておくということが、いざれ何百年か経ったら誰かが読むかもしれないじゃないですか。つくる建築も壊れないようにしないと(笑)。壊れちゃうとすべて消えちゃうからね(笑)。日本の建築なんてほとんどそんなようなんだから嫌だな、と思つてね。ローマに行くと思跡を見るじゃん、そうするとその時代とやっぱり会話してるような感じがするじゃない? 「ローマの時代の風呂は楽しかったぞ」みたいな(笑)。お風呂入る時はこんな風に入つて、みたいなのがあつて。でもそれから後って全然分かんないですよ。そこから今までの間、風呂が楽しかった時代ってどこだ? みたいな。風呂一つとっても「日本人と風呂」というのはどういふものなのかとか、風呂じゃなくても、料理でも寝るのでも恋愛でも、どういふ風にしているのかっていうのを考えていくつていふ……。

逆にもう全部「I」になると人間にはどんな豊かさが得られるのかっていうのを考えてみるのは面白いかもしれない

けど。それはそれで興味ある。働かなくていいんですかね(笑)?

**学生** どうやって朝起きるんですかね。

**高橋** 目覚まし時計で起きるのかな(笑)。勝手に起きるのかな? 朝起きる必要はないんじゃないかな……。起きた時が朝……。そうするとどうやって食事するんだろ。だつてサンドイッチ食べようと思つてコンビニに行つたら人がいなくて、でもサンドイッチ食べるわけでしょ? もしくは誰かが運びに来るわけじゃない。UberEatsもきつと人じゃなくてロボットとか、ドローンとかで運ばれてくるんですよ。

**学生** 逆に無理やり苦しむことを選ぶかも。なんでもやつてくれるから、無理やり辛いことを自分でやる。

**高橋** 今も割とそうだよ、ジム行つたりするもんね。「I」が蔓延つた場合、「I」が当たり前なわけですよ。Googleに話しかける子供とかつてどうなるんだろ。何が楽しいんだろ。

**学生** 今は「I」のミスが面白いくらいだと思います。Siriとかに話しかけても全然話を通じないのが面白いみたいな。

**高橋** そこに豊かさがあるのか、それでまた人間とは何か知りたくなるのか……。

**学生** でも「I」って建築作れないんじゃないでしょうか?

**高橋** 確かにそうやって立つのは建築とは呼べないかもしれない。でも新時代の人は、それを建築と言う。その流れにあると思うし、下降している今も下降見方は当然あると思う。今中国の武漢とか、八日で病院が建つんだよ。でもその時だけならあんなのでいいんだよ。東京で街歩いてると、これ仮設だろつて思うようなビルばかり建つてるじゃない。みんな二十二歳ぐらいでしょ? 小学校の時に見た周りの建物よりも遥かに薄っぺらなつてると思うよ。駅舎なんて全部仮設にしか見えないだろ? 「I」が作れば、もつとあなる。

**学生** でも商業目的でスピード感があるから全部「I」がやつてくれたら稼ぐ必要がなくて、建築作れないんじゃない? と思つたんですけど。

**高橋** 作らなくなるかもしれない……。どうするんだろ。ね。あとお金の話もどうなるのかなつて。仮想通貨あるしね。

※1、2、3、4、8、9 学部生課題。152-103頁参照  
※10 『動物化する世界の中で——全共同以後の日本』ポストモダン以降の批評(集英社新書)